



(電子版)

info@jikosoren.jp

2019年 第19号 2019年10月24日

発行：自交総連本部

〒110-0003 東京都台東区根岸2-18-2-201

tel. 03-3875-8071 fax. 03-3874-4997

## 共同を広げ白タク合法化阻止、組織強化拡大 第42回定期大会 19年度運動方針を確立

自交総連は10月21～22日、東京・全労連会館で、「共同を広げ白タク合法化阻止、力を合わせ組織強化拡大」をスローガンに第42回定期大会をひらき、2019年度運動方針を決めました。15地方111人が参加しました。

あいさつに立った高城委員長は、冒頭、台風19号の被害に触れ、東北地連で事務所の浸水など被害が出ているとして、復興支援をよびかけました。

参議院選挙で与党が改憲発議に必要な3分の2議席を割り込み、国民の意志は性急な改憲など必要ないというものなのに、安倍首相は改憲をすすめるようとしていると批判、この悪政が白タク合法化＝ライドシェア解禁でも重大な害悪となっていると指摘しました。安倍首相は、自家用有償旅客運送の拡大、道路運送法の改悪を自ら指示しており、公共交通の軽視、地方切り捨ての政策をすすめている悪政を変革しない限り私たちの要求実現は困難となるとして、政治を変えるたたかひの必要性を強調しました。

自家用運送の拡大は、安心・安全を放棄して、ライドシェアにつなげようとするもので、全労連や他産別との共闘をすすめる、広範なスクラムで押し返そうと訴えました。また、日雇いのギグワーカーなどの広がりに対して、労働者の権利を守り、最低賃金1500円の実現など労働条件の改善の運動をよびかけました。

組織、財政的にも危機感をもって仲間を増やさなければ組織の将来がないとし、学習をつよめ、運動に確信が持てるとりくみで、組織の強化拡大を行うことを訴えました。

第42回定期大会＝2019. 10. 21-22、東京・全労連会館



第42回定期大会 参加者数

	定数	出席	委任	計	%
役員	16	16	0	16	100
中央委員	26	24	2	26	100
代議員	63	41	18	59	93.7
計	105	81	20	101	96.2
会計監査		2			
傍聴者		9			
来賓		6			
総務		2			
報道他		11			
合計		111			

大会では、全労連小田川義和議長、交運共闘瀬戸修副議長、日本共産党高橋千鶴子衆院議員、顧問弁護士団林治弁護士が来賓あいさつ、田辺幸雄、菅俊治弁護士も参加しました。

討論では12地方17人が発言、新加盟して賃上げを実現した、3・7行動に参加して感動したなどの経験、白タク合法化阻止など今後のとりくみを述べました。

大会会場でよびかけられた台風19号被害への場内カンパは、集まった3万3640円が東北地連に手渡されました。

---

## 大会宣言

自交総連は、「共同を広げ白タク合法化阻止、力を合わせ組織強化拡大」をメインスローガンに、第42回大会を開催した。

白タク合法化の動きが依然としてやまない中、さらに自家用有償旅客運送の拡大、道路運送法改悪の方針が閣議決定されるなど、政府と規制緩和推進勢力が手を組んで利用者が安心・安全に移動する権利を危険にさらし、自交労働者のくらしと雇用を破壊する攻撃がつづいている。日本社会の安心・安全に関わる際限なき規制破壊を転換して規制強化への道を切り拓かなければならない。観光バスでは、依然として規制緩和による過当競争が続いている。長時間労働の抜本的な見直しを迫るたたかいを進めていく。自動車教習所では、入所者の減少による企業の生き残り競争がつづき、「合理化」、長時間労働が強いられている。今後も権利擁護のたたかいを前進させなければならない。

安倍政権は労働法制の改悪、年金改善の拒否、消費税10%を強行して、国民負担を強いるばかりか、辺野古新米軍基地建設、武器や食料の大量購入など、大企業本位、アメリカべったりの政治に終始している。悪政を打破し、憲法9条を守り、国民のくらしと平和、民主主義を守る課題もますます重要となっている。

組織強化拡大の課題では、自交総連の組織減少が止められていない危機的状況である。闘争力の低下は、要求を実現させる力の減退となる重大な問題である。しかし、われわれは仲間を集めるエネルギーを失ってはいない。職場活動の活性化、地連・地本、ブロック機能を強化して、未来の仲間たちに信頼される労働組合として日常活動を継続して、必ず組織の減少を食い止め、増勢への道を切り拓く決意である。

自交総連は、組織を強化拡大し、情勢変化に適応した運動を強化させて、タクシ一事業を破滅させる白タク合法化を断固阻止することを宣言する。